チームワークで問題解決

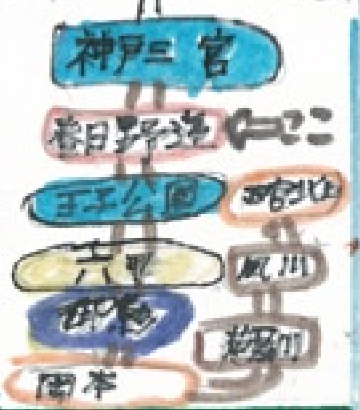
マルーン新聞

春日野道駅 安全特集号

発行者 松元 亮太

発行日 8月19日

阪急 春日野道など



阪急 春日野道駅の安全対策

阪急春日野道駅はプラットホーム（ホーム）の横幅がせまいにもかかわらず時速70kmで特急などが通過する。危険であるように思えるが、いろんな人が協力しあいながら、安全確保のために頑張っている。また、乗客に危険を知らせる方法にも工夫をこらしている。

8月12日 13時10分 撮影

春日野道駅について

阪急春日野道駅は、阪急神戸三宮のとなりの駅で、約一万一千人が利用している。北は道路、南はJRにはさまれているので、駅で利用できる面積がせまい。そのため、ホームの横幅もせまい。実際ホームに立ってみると、幸せまいところは、ぼくが両手を広げたよりも少し大きいくらいだった。特急が通過したときは[illegible]くらいだった。また、ホームが曲がってて見通しもよくないので安全確認もしにくそうだ。しかし事故はほとんど起こっていない。では、事故はどうして起きないのか。今回取材してわかったそのヒミツを紹介する。

鉄道マンによる安全確認

取材に協力していただいたのは、春日野道駅の駅員さん。この方は、車しょうをした時代もあったそうだ。駅員さんの話によると、この駅を通る列車の運転士さんは、ホームの横幅はせまいので他の駅を通るときよりも乗客の動きに注意しているそうだ。特にこの駅は特急が通過するので運転士さんはかなり前からホームを見ており、かたときも目をはなすことはないそうだ。車しょうさんは駅に到着・発車するときに注意している。大阪梅田方面ゆきと神戸三宮方面ゆきでは安全確認の方法がちがう。春日野道駅はホームが曲がっており大阪梅田方面ゆきの列車は内側にそる。車しょうさんは自分の目で列車全体の安全確認をし、

春日野道は神戸三宮からも守られている!?

先頭部分はモニターでもみている。しかし神戸三宮方面ゆきの列車は、外側にそるので車しょうさんは自分の目で先頭部分の乗客の乗り降りの様子を確認することができない。そこで神戸三宮の駅員さんが春日野道駅を発車するときの安全をテレビカメラで確認し、車しょうさんに伝えているそうだ。この時使われているのが「トＯマーク」だ（写真参照）。トＯマークというものは、ホーム東側（神戸三宮方面ゆきの車しょうさんにとってみやすい場所）の天井部分からつり下げてある信号で、左から順に「ト」「Ｏ」「×」とかかれてあり、「ト」はとびらを、「Ｏ」はとびらをしめてもよい、「×」はまだとびらをしめてはいけないということを表わしている。三宮の駅員さんが信号を送って点灯し、車しょうさんに知らせる仕組みになっている。

トＯマークのヒミツ

▲トＯマーク
8月12日 13時53分 撮影

その他の取り組みの工夫

特急の通過時は、警告音を大きくする。アナウンスは、はっきりとききとりやすくする。階段にはすべり止めをつけ、黄色いラインで、わかりやすくするなど工夫されている。エレベーターが設置できないので、ベビーカーや車いすの方は阪神電車の利用をすすめるなど、対応されている。

感想

ぼくは、以前から阪急ファンでした。この駅を通過するとき危なくないのかな？と思ったことがきっかけで取材をしました。となりの駅から安全を守るというすごい工夫に感動しました。ご協力下さった駅員さん、ありがとうございました。